

# きりだまえやち いせき 切田前谷地(1)遺跡

所在地 とわだし おおあざきりだあざきりだまえやち  
十和田市大字切田字切田前谷地

時代 じょうもんじだい へいあんじだい むろまちじだい  
縄文時代、平安時代、室町時代

出土遺物 じょうもんどき はじき すえき てつせいひん とうじき せきせいひん  
縄文土器、土師器、須恵器、鉄製品、陶磁器、石製品ほか

出土遺構 おとしあな たてあなじゅうきよあと たてあなたてものあと おおみぞ  
陥穴、竪穴住居跡、竪穴建物跡、大溝ほか

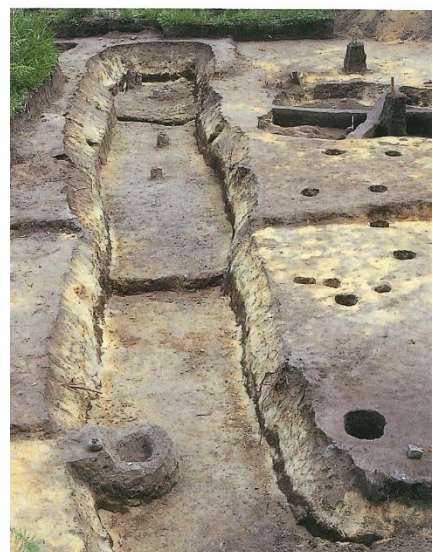
報告書名 1985年 切田前谷地遺跡発掘調査報告書

## 解説

おいらせがわしりゅう ぜつじょうだいちじょう  
市街地の南約5km、奥入瀬川支流の舌状台地上にあります。1985年  
はつくつちようさ  
に発掘調査がおこなわれ、平安時代(10世紀後半)の竪穴住居跡10軒、  
竪穴建物跡3基、大溝跡がみつきり、しゅうらく  
集落があったことがわかりました。  
竪穴住居跡は方形でカマドがついており東向きのもと北向きのものがあり  
ました。住居跡からは土師器のつき かめ坏や甕、須恵器のかめ やじり とうす ほつみぐ甕、鍬や刀子、穂摘具  
てつせいひん  
鉄製品などがみつかったほかに、かじ  
鍛冶に使われたはぐち てっさい羽口、鉄滓も発見され  
ています。また、谷をはさんで北側には切田前谷地(2)遺跡があり、こ  
ちらでも同時期のムラの跡が発見されています。



竪穴住居跡



大溝跡